

●ガバナー 今井 高志 ● 会長 西村 幸也 ● 幹事 西尾 和樹 ● コミュニケーション委員長 熊谷 道雄

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2016/

第 2082 回 例会 記録

《国際奉仕委員会担当例会》

2018 年 11 月 15 日 (木)

点鐘 12：30

レポート No. 1514



《会長要件》西村会長



皆さん、こんにちは。先週、南浦項 RC の創立記念例会に出席するために、私を含めて 5 人のメンバーで韓国に行って参りました。今日はこれから後の時間で、皆さんにその体験談が報告されると思いますが、本日は国際奉仕委員会担当例会ですので、ロータリーの国際奉仕について私が思っていることを少し述べてみたいと思います。

申すまでもなく、国際奉仕はロータリーの 5 つの奉仕部門の中のひとつで、第 4 番目に掲げられています。文献をひもとくと、その奉仕の第 1 歩は、「他国の文化、慣習、そこにある問題などを知ることであり、それは旅行や国際大会に出席することによる見聞や、個人交流から始まる」、とされています。

ポール・ハリス自身が大変旅行好きだったことも知られています。

そして 1946 年、日本では終戦の翌年にあたる年ですが、ロータリアン誌で

ポール・ハリスはこのように述べています。

「偏見を捨てることができれば、旅行は精神上的の視野狭窄をいやすのに格好のものです。人々は美しくろうと醜かろうと、自分の求めるものを見ることがになります。もし批判するものを見つけたければ、より偏見をもち、より尊大になって家路につくことさえあります。」

前置きが長くなりましたが、私の理解で申しますと、国際奉仕はまず海外に出掛けてみる、あるいは海外からの訪問者を迎えてみるのが第 1 歩になる、ということです。そういう意味で、私達が韓国に姉妹クラブを持っていることは、これまで多くの先輩達によって築かれた貴重な財産だと思います。互いに訪問し合い、良い関係を維持し合うためには多くの時間と労力を要します。私にとってはこの半年間だけでも大変でしたが、おかげで南浦項 RC に何人かの親しい仲間ができました。

繰り返しになりますが、まず現地に足を運び、現地の方と交流してみることは、国際奉仕という少し

《出席報告》原委員長



正会員数 36 名。本日の出席は免除会員 1 名を含む 23 名。出席率は 74% です。前々回の例会は、指名委員選挙例会でした。

堅苦しい概念は抜きにしても、何か新しいこと、新しい自分を発見できる機会になります。是非、一人でも多くの皆さんに足を運んでいただければと思っています。

《幹事報告》西尾幹事



・来週 22 日の例会は職場訪問例会です、会場は赤穂工務店さんですのでお間違いないようにお願いします。そば打ち体験をされる方は 15 時以降随時、例会は 18 時 30 分からです。

・よろず相談の記事が 11 月 6 日のデーリー東北に掲載されています。

・来月のクリスマス家族例会の出欠を回しています、1 か月前ではありますが出来るだけ多くの方の参加をお願いします。

・12 月 2 日 (日) に行われる地区財団セミナーの案内が届いています。

・八戸聖ウルスラ学院より英語弁論大会のプログラムが届いています。

・ハイライト米山が届いています。

・2019 年 6 月に行われる国際大会の旅行案内が届いています。

《ニコニコボックス》大橋副委員長

西村会長：韓国訪問を楽しんできました、来年また行きましょう。また、RLI に参加された吉田さん、伊藤さん、ご苦労様でした。

西尾幹事：南浦項訪問楽しんできました。

黒田会員：南浦項 RC 訪問では一行の皆様にお世話に



なりました。

米内会員：南浦項お陰様で無事帰ってまいりました。

伊藤会員：南浦項訪問の皆様、お疲れさまでした。

吉田立盛会員：南浦項 RC 訪問、無事行ってきました。

《RLI 報告》伊藤会員



先週の土曜日曜の二日間吉田賢治会長エレクトと二人で青森で RLI の研修を受けてきました。私は 3 回目、吉田会長エレクトは 2 回目の参加になります。そういうことで最初は参加しなくてもいいよと会長エレクトには言っていたのですが、どうしても自分の年度のガバナーのお名前のある案内なので参加したいということでお供としていって来ました。私は 3 回目なので慣れているつもりでいたのですが出るたびに新しい気づきがありロータリーのことを知るにはよい機会だなと改めて感じて帰ってきました。出席は 25 クラブの方々しか来ておらず参加していないクラブが 15 クラブくらいあります。その中でロータリー歴 2 年の方から 30 数年の方まで幅広い会員の方が集まり、それぞれロータリーのことについて、ロータリーって何だろうと考えながら次年度の自分たちの年度に向かって会長になる方々が勉強する貴重な場だったなど、1 日目はのんびりと受講していましたが、二日目には黒田先生がおいでになり私のすぐ横にお座りになりましたのですごく緊張した RLI になりました。これがその時のテキストです、新しく更新されて今まで持っていたものとは違いますので改めて読んでみたいと思います。一番最後のセッションでセッションを仕切るファシリテーターの方から「例会は親睦と教育の場である」ということを皆さんに伝えてくださいと黒田先生がおっしゃっていましたとのことでしたので、「例会は親睦と教育の場である」このことを皆さんにお伝えして報告を終わります。

《ロータリー財団委員会》石橋委員長

本日櫻田会員よりポリオに 90 ドルの寄付をいただきました。ありがとうございました。

《国際奉仕委員会》吉田委員長

今日の国際奉仕担当例会は南浦項訪問の報告例会とさせていただきます。今回は 11 月 6 日から 9 日まで三泊四日の行程で南浦項に行ってきました。前回南浦項の方が八戸に来られた時は会長以下 6 名の方に来ていただきましたが、今回私たちは 5 名で行ってまいりました。行ったメンバーは会長、幹事、黒田先生、米内直前会長と私です。元 RI 理事、現会長・幹事、直前会長、そして国際奉仕担当の現委員長なので少数精鋭で行ってきたのかなと思います。行程は三沢→羽田→ソウル、ソウルからは向こうの新幹線みたいな KTX という列車で、帰りはその逆の行程で行って来ました。最初は 4 名の予定だったのですが 2 週間くらい前に急遽黒田先生も来てくれるということで大変心強い反面、果たしてこんな行程で良いのかとすごく不安になりました。せっかく行くのだから何か勉強して持ち帰ってこようという強い気持ちで行っ



たのですが、ただ飲んで食べて酔っぱらっての三泊四日でした。気づきもいろいろありましたのでその辺を含めて一緒に行ったメンバーから報告をしてもらいたいと思います。

《西村会長》



私は韓国は 2 回目ですが前回行ったのは国際大会でソウルだけだったので浦項に行ったのは今回が初めてで、浦項に関しては見るもの、聞くものみんな新しいものばかりで大変新鮮な印象を受けてまいりました。記念例会、皆さん何度も出られていると思いますが、会員数が 150 ～ 160 人くらいで大変多いということもありますし、家族、ご婦人たちのサポートも強力なようで華やか、豪華な印象を受けてまいりました。普段の例会はどうか一回見てみたいと思った次第です。浦項は雨で市内観光をサラサラとしたのですが、特に私は今年の 8 月に来てくれた 6 人の方、特に会長や副会長とは懇意になりましたので友人に会いに行くという感じもありました。やはり行ってみると顔なじみの会長、副会長、国際委員長や幹事の方は親身になって迎えてくれましたし、私たちが 8 月にちょっと頑張ったお礼を倍ぐらいにして返したいとおっしゃっていましたが、その意気込みが伝わってくる感じで、私もただ食べて飲んでこれ以上は無理という感じで帰ってきました。ところ変われば品変わるといいますか、お国柄で色々感じることはありました。それはこれからのいろいろな活動に生かしていけるのではと感じて帰ってきました。

《西尾幹事》

今回は昨年が続いて 2 回目の韓国訪問でした。このようにお話しするときには去年はどうだったかなといつも思うのですが、去年が初めての韓国で初めての海外でしたので今思えば去年は去年で楽しかったのですがずっと緊張していたのかなと思いました。今年は心から楽しめたというか余裕がありました。出発の準備だったりとかも現地でもどうにでもなることがわかりましたので、そんなに準備もしないで気楽な感じで行きました。向こうの人に会うのも 8 月にこちらに来ていただいて交流を深めていたのが大きかったと思うのですが、とても親身に仲良くすることができました。今回幹事としていったのですが、幹事としての役割はどれだけ果たせたかわかりませんが、たくさん飲んで食べることができました。来年はもっともっと楽しめるのではないかなと思いました。回数を重ねると海外に行くこと自体も慣れてきましたし、向こうの方と会うのもとても楽しみにになりましたので今後とも交流を深めていけたらなと思いました。



《米内直前会長》

今回は 2 回目ですが会長としてではなく行ったので少し気分が楽でした。私は気分が楽だったので



すが西村会長と西尾幹事はお二人で大任をよくこなしていただき、大役を果たしていただいたなと思いました。西村会長のご挨拶は普段お話するのはあまり上手な方でないと思うのですが

お話の中身はとても良いお話だったと思います。私たちは話の中身に感動するのでとても良かったし、最後は台湾の方々に英語でスピーチをされ立派にこなしていただいたと思います。私はついて行って食べるだけ、ベルトの穴が1つ大きくなるほど食べてまいりました。最初に浦項の駅まで迎えに来ていただいて親切にいただきました。お花をいただいて胸にさすところから始まりました。雨が降っていたりしたのですか、私は行ったことのない慶州、日本の京都のようなところでした。少し雨が降っていましたが雨の紅葉もきれいな感じでした。何回も行った方は行っているといっていました、市場も八戸の市場のこともありますよかったです。ちょうど越前ガニが上がっていましたが国が違うといろいろ違うんだなと思ってまいりました。最後に皆さんは行きたくないのに無理を言って射撃場に行き、私だけが楽しんできました。ソウルについていた時雨が降っていたのですがお陰様で非常に良い旅行でした。ありがとうございました。

《黒田会員》

私は別な目的もありまして、来週ロータリー研究会が神戸であり職業奉仕のモデレーターを担当していますので、韓国ではどうなのかと李 東均さんに電話していろいろ聞きました。話の最後に李 東均さんから、絶対に来なければだめだ、来て南浦項ロータリークラブの成長ぶりを見てくれと言われました。それで急遽2週間前に行くことになりました。そういう話になるので最後にお話しさせていただきます。



式典では新会員の入会式も非常に厳粛に大きくやっています。私たちと同じく一式渡してスピーチさせるだけでなく、記念品はずっと飾っておけるようなものをプレゼントするし、宣誓式もします。何か大きな用事の時、セレモニーのある時、ガバナーが来た時とか記念式典とかに入会式をまとめてやり、新会員に印象付けてなかなかやめにくいようになっています。クラブの大きな行事、年度が変わるとかガバナー公式訪問の時に歌を歌います。式典のプログラムにも載っていますが、私たちが歌っている日本のロータリーソングではなく、南浦項ロータリークラブは世界共通のロータリーソングを歌っています。私たちが国際協議会とか国際大会に行った時に世界の皆さんと歌う歌を韓国語で歌っています。その歌詞の中に「もっともよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という言葉も入っていて国際的な感覚を常に感じています。また、大きな行事の時には「ロータリーの目的」ロータリー手帳に書いてありますがこの目的をみんなで斉唱しています。斉唱しながら例会で「ロータリーの目的」とはどういうことかと

いうことを読み上げます。全会員が、新会員ももちろんそうですが何回も繰り返しているうちに半年もすれば理解していきます。簡単な言葉ですからどういふことか特別に改めて教えなくてもわかってもらえるのです。それをやらないときは「四つのテスト」を毎週例会の時にやる、というようにいろいろと工夫しています。ロータリーの会場も、浦項市内だけで25以上ロータリークラブがありますので、ロータリー会館というのを設けています。そこに専属の事務局の人が居り、1階、2階、3階を使って1日にいくつもの例会をしています。ロータリー会館で効率的に行うことによって、できるだけ会費を浮かすようにしています。奉仕活動の内容を聞きましたら、浦項市内の貧しい家庭の子供向けの奨学資金をクラブで出していて、高校生、大学生、沢山の方を自分たちのクラブで奨学生として出しているということでした。こういうことをやっているのも市民にロータリークラブのことは十分にイメージアップされていて、ロータリーに入りたいたいという人が多いわけです。私たちのクラブも追い越されてしまい155名という大きなクラブに発展しています。世界でも今、国際ロータリーの流れでリードしているのは東アジアです。日本と韓国と台湾、国際財団の寄付も大きくしているし、いろいろと活躍している人も多く出ている、そういう時代になり、アメリカの中では両極端でいろいろな考え方の人がいるので統一が取れていませんが、東アジアはロータリーの目標を、ぶれることなく歩んでいるという感じがしました。職業奉仕のことも聞いてきました。会員155名のうち専門の歯科医が4人いるので、この方たちがクラブの皆さんから資金を出してもらって、郊外の貧しい家庭の方々の診療を無料でしているそうです。韓国ではまだ貧富の差が日本より大きいので、貧しい家庭のお年寄りや子供たちに無料の歯科診療をしています。受診者が多くて歯科医が足りないときは、他のクラブの歯科医にも応援してもらってやっているそうです。自分の職業を生かしてやっていて、狭い意味での職業奉仕で、実際やっていることは社会奉仕と重なっていますが、そういうことを実践しているということを書いていました。以上簡単に姉妹クラブの浦項の現状でした。

李 東均さんは長老ですけれども、決してでしゃばることなく、若い人たちを立てて、皆さんと仲良くやっていることに感心してきました。非常に楽しい旅行でした。

《吉田委員長》

少し時間がありますので行った時の写真を見ていただきたいと思います。(沢山の写真と楽しい説明)先ほど黒田先生がおっしゃっていましたが、行って気づいたことがたくさんあります。一つは奥様方が式典に協力的でクラブ一体となっていました。もちろんうちのクラブの奥様方も協力してくださるのですが、うちの妻はあまり手伝いに来ないので何も言えません。そういう意味でもクラブが盛り上がるような仕掛けはそこかしこにあるのだと感じました。ぜひうちのクラブにも何か取り入れられればなと思いました。